開心
静聴
充満
献身
奉仕

日本クリスチャン・アシュラム連盟　冬季号

日本アシュラム

Winter 1984　United Christian Ashrams of Japan　49

▼連盟は創始者の祈りによって各地に生れたファミリーの全国的な交わりであって、常に新しい家族（単位）の参加を期待している。

スタンレー・ジョーンズの生涯
―その回心を中心として―

海老沢宣道

この一年（一九八四）を通じて本紙は全世界のファミリーと共にアシュラムの創始者スタンレー・ジョーンズ博士の生誕（一月三日）百年を記念してきました。今その年も終ろうとしている時、改めて師の生涯を偲ぶものであります。

彼は一八八四年メリーランド州のクラークスビルの農家に生れ、十五才でバルチモアの大学で法律を学び十九才で献身、二二才でアズベリー神学校を卒業、翌年メソジストの宣教師としてインドに渡りました。

彼は召命を受け献身した時の模様を次のように書き残しています。

『ロバート・ベイツマンと言う伝道者が教会にきた。私は彼の粗野な外観の中に真実があるのを見た。彼は神の愛の焔によってアル中から救われた人であった。私は彼が持っているものが欲しい、と真剣に独り言を言った。私は宣伝文句に妨げられずに、真実を求めた。借りの宿でなく、私の家が欲しかった。三日間それを探し求め、二度も聖壇の前にひざまづいた。一度は私の敬愛する教師のミス・ネリー・ローガンが一緒に坐って、ヨハネ三章十六節の御言を次のように誦えてくれた。

『神はその独り子を賜うほどに、スタンレー・ジョーンズを愛された。それはスタンレーが御子を信じるなら、滅びることがなく、永遠の命を得るためである。』私は彼女の後についてくり返し誦えたが、暗い心には何の確信の光もさして来なかった。三日目の夜、集会に出る前に寝室で一生になかったほどの真剣な祈りを捧げた。私の全生涯はこの単純な祈りのかげにあった。

『おゝイエスよ、今晩私を救って下さい』。主は実行して下さった。一筋の光が私の闇を射して、希望が心の中に湧き上ってきた。主が答えようとしていることを信じる。然し祈りの祭壇に於て、主に出会うことを教えられた。そこで私は教会に行かねば、と感じて一目散に走った。魂の熱望が全身にみなぎり、破滅の巷から天に在る都を目指すクリスチャンのように走った。そして教会に入ると今まで坐ったことのない最前列の席に着いた。伝道者が話をやめるほど私は熱烈であった。そこで説教がすんだ時、私は誰よりも先に祈りの祭壇にひれ伏した。

その時、天が開けて私は確信と受容と和解とによって包まれた。私は隣りの人の肩をつかまえて、『それを得た』と言った。それとはイエスのことである。私が彼を持ち、彼が私を持った。私の孤独、私の疎遠は消え去り、和解が与えられた。私は立上った時、両腕をもって全世界を抱き、この恵みを全ての人と分ち合いたいと感じた。その時、実際にその後の私の一生が文字通り、この事に従事することになるとは夢にも思っていなかった。しかし私はそうした。これは芥種の運動であった。私

編集人　海老沢宣道
発行人　大石嗣郎
定価　一部60円　〒60円

の末来の全てはその中に内包されていたのである。』

スタンレーがこの回心経験をした時にひざまづいた祈禱台は、今日もバルチモアのメソジスト教会に記念として保存されています。

彼は二四才で北インド年会により役員に任ぜられ、二七才で有力な教育者マーベルと結婚、三六才で博士号を受け、四〇才の時、北米メソジスト年会で監督に指名されたが辞退し、インド・ベンガルにあったタゴール学校で学びつゝ教えました。また翌年にはガンジーのアシュラムに出席、この年処女作『インド途上のキリスト』を出版、世界各国語に訳されてベストセラーとなりました。

四年後、北米の年会で再び監督に選挙されたが辞退し、四五才の時に『あらゆる道のキリスト』を出版、一九三〇年四六才の時、アシュラムを取入れた聖会を三名で開始しました。それから十年、世界伝道が続けられたが、四〇年から七年間はインドの独立運動に共鳴したため、追放され、南北アメリカ伝道に集中、四六年入国を許可されて、半年は米国、半年はインドに伝道、四九年からは二年おきに三ケ月を日本に奉仕されました。五四年に七〇才で引退してからは毎年五〇週を独立伝道者として献身、七八才の時ノーベル平和賞の候補に、翌年ガンジー平和賞を受けられました。第十回目に日本全国伝道を五十市町村で百五十回説教して帰米された一九七一年十二月脳卒中に倒れ、翌年車椅子で第一回世界アシュラム（エルサレム）に出席、インドのサトタルに帰り、一九七三年一月二五日召天されたのです。インド伝道の初期にタゴールやガンジーに学ばれた謙虚さに打たれると共に最後の病中記『神の然り』の遺書にも回心の時以来の熱烈な霊動が脈打っていることに感銘を受けます。

《書評》海老沢宣道著
「主イエスに就ての黙想」
白夢荘刊

溢れるインマヌエルの臨在信仰

神山良雄

これはマタイ福音書のキリスト伝とも言うべきもの、然し注釈書ではない。著者がアシュラムの静聴の態度で主のみ声を身近に聞きつつ書いた霊味溢るる名著である。内容はクリスマスから昇天までを沈思黙考、うん蓄された広い知識から事例を引いて興味深く書かれている。

十二章の「わたしのもとに来なさい」これはクライマックスだ。私共はこの句をただ重荷を取除き苦労をなくして貰おうと考え易い。そうではなく続くみ言のように、主と共にくびきを負う、ここが大切である。くびきを一人で負うのでなく、主と連結して負う所に真の安息があり喜びがある。

あとがきの中に、昔ドイツにヘデルケルという主イエスを常に心に宿した牧師のすばらしい証しがあり、もう一つ、末尾にある物語はすばらしい。生涯主と共に歩んで二対の足跡が続いたのに、最も苦しい時に一対の足跡しかなかったことにいぶかり質問した男に対する主のお答えを読んで、私は感涙にむせんだ。

主を深く黙想させる書

岡田実

海老沢宣道師による本書を読み終り、主を更に深く黙想できたことを感謝している。〈最初のクリスマス〉から各章が短くまとまっているから読み易い。地歴的にもしっかり骨格が構成されている。霊的にサレンダーの恵みが起点となり、キリストの目で促え直し生きいきしている。親しい友やCS教師への贈物として最適の書物と思う。

旱天の慈雨

渕江淳一

敬愛する先輩、日本アシュラムの理事長として指導しておられる海老沢先生が今般、本書を出されたことは、旱天の慈雨とも言うべく、誠に喜ばしいニュースであります。

マタイ福音書の連続的講解の形をとっていますが、堅実なる釈義に基きながらも、それは奥にかくされて前面には極めて美しい情緒が溢れ、まるでルカがまた新しく書いたものではないかと思わせられました。

これは著者が若い日に童話作家であり、また幼な子の如き心を以て、主イエスを受け入れるアシュラムの精神が自然に具現されたものと思われます。また著者はキリスト教界の長老として、二百頁、二八章の全ての頁に潤いある生きた教訓を珠玉のように連ねています。荒廃を極める現代において万人必読の書であります。

霊交の歌

み言に聴く

山根可弌

新しきこの日に望む新たなる
主のみ言を、われにたまいて。
○
今朝もまた主のみ恵みにあずかりて、目ざめと共にみ言に起く。
○
近づけとなつかしき主の御声あり、起きいでて我み言にきく。
○
主と共に歩みし今日の一日はみ言に生き、み栄えを見つ。

『イエスは主である』
（ロマ書十章九節）
（コリント第一書十二章三節）

アシュラムの五大原則
（一）キリストへの明渡し
（二）御言への静聴と立証
（三）聖霊の導きに応答

好評・再版出来
海老沢宣道著
「アシュラムの原則と実際」
新書判52頁

世界アシュラムの標語

（ピリピ書　第二章　十一節）

（三）聖霊の感動と充満
（四）神の国の体験と献身
（五）教会への奉仕と伝道

スタンレー博士に親しく指導を受けた著者がアシュラムの五大原則と守り方を平易に解説。

各地ニュース

▼千葉本町教会アシュラム

九月二三日（日）教会の礼拝に続き、午後から佐倉市草ぶえの丘に移動して守る。助言者として海老沢宣道師を迎え、開会礼拝（奥山牧師）福音の時は主題の「神の作品」（海老沢）翌二四日早天祈禱会、祈りの分団、恵みの時、午後の充満献身の時には参加者一同再献身をして数年ぶりにアシュラム様式で守ることができた喜びに溢れ感謝の裡に散会した。礼拝には四十名、退修会には半数が参加した。

▼第八回東京城西アシュラム

「神はわたしたちをお招きになった」（行伝十六ノ十）を主題として去九月二四日（月、休）午前十時から大宮前教会に三六名が集い、開会説教（松沢信広）開心の時（渕江淳一）静聴の時（細川静）恵みの時（植村俊雄）充満の時（満丸茂）の順で守り、一同御霊の愛に満され、主の御名を讃えつゝ再会を約して散会した。総務は草村師が担当した。

▼第二二回関東アシュラム

創始者スタンレー生誕百年を記念し、『神の国の体験』（ルカ十七の二一）を主題として、去十月八日から十日まで例年の如く奥多摩の福音の家で二泊三日間、七十名が各派教会より集まって守られた。今年は期間中に「祈りの細胞」を四回も設定して、静聴と恵みの分ち合いに当てたのが特色である。その間に一同はヨハネ福音書を十二章から二十章までを静聴した。助言者として奉仕したのは、岡田、渕江、植村、大石、海老沢、満丸の諸師、各細胞の座長は全て信徒の兄姉が当られた。主の御臨在と兄弟愛の充満によってこの世ながら神の国に生きる喜びを実感した。また労作の指揮に初めてパロ女王を選任したことも珍らしい。最後の朝の恵みの時に数名の方々が立証されたが、何れにも深い感銘を受け、一同感謝の裡に、明日からの信仰生活を主と共に前進する決意を新たにそれぞれの家路についた。

第22回 関東アシュラム

▼第十八回関西アシュラム

『主の御名のために』（行伝五の四一）を主題として去十月九日より一泊二日にわたり、千里山シオンロッジにて開催、二四教会より五六名が参加（内教職十四名）、中路委員長は病院から車椅子で出席、開会説教をして病院に帰られた。後宮、中島、古河、杉田、平方、平岡、吉本、金徳成、内貴、辻中の諸兄姉が委員として奉仕、今年の特色は救世軍、バプテスト同盟から各三名参加されたことで、一同深い感銘を与えられ、再会を期して散会した。（辻中記）

▼第十九回九州アシュラム

「あなたこそ生ける神の子キリストです」（マタイ十六章十六）を主題として、海老沢理事長を助言者に迎え、去十月二九日から一泊二日間、福岡女学院八木山研修寮にてスタンレー生誕百年を記念して開かれた。多忙な生活から離れて、山間の静かな会場に北九州の各教会から約三十名が出席、一同ピリピ書からみことばに聴き、深い祈りに導かれ、新しい信仰の目が開かれた。続々と恵まれた感謝状が寄せられている。開会礼拝は川野委員長が、開心、福音、充満の三時限を海老沢師、祈りの細胞は三組に分れて守り、早天祈会は山本繁夫師、あかしの時は谷志朗師が担当された。多くの祈りのリクエストが助言者に寄せられた。春日原バプテストの末永師が総務の労を取られた。

▼第五回札幌アシュラム

去十一月二日から一泊二日に亘り新潟の酒井春雄師を助言者として迎え、「信仰は聞くにより、聞くはキリストの言による」を主題聖句とし、静聴のテキストにはルカ福音書十一章から十九章を用いた。参加者は九教会から五〇名で前回よりも多かった。新築のクリスチャン・センターを会場にしたので、全てチャペルで集会をすることができたのは良かったが、大勢の宿泊には不便があった。

▼本庄福音教会アシュラム

十月十四日（日）朝拝から海老沢師を迎え、午後にわたって初めてアシュラムの導きを受けた。須田牧師夫妻の祈りによって良い準備がなされ、参加者二五名大いに恵まれ、一同感謝のうちに再会を約して散会。

▼第二回練馬アシュラム

聖協団の練馬教会（小笠原孝師）は故矢島あさの姉の属した教会、姉が召天された後、牧師は理事長宅を訪問、指導を受け、去二月に第一回を催し、今秋十一月三、四日と二日に亘り海老沢師を迎えて開いた。三

日は朝十時から夜八時半まで、三十名出席、四日(日)不断の祈りから早天祈禱会、労作、福音の時、午後三時半に充満の時を守って終る。この朝は八十数名、午後は四十名余が参加し、一同新しい霊に満された。

▼池ノ上教会アシュラム

十一月十八日(日)午前十時の祈禱会から礼拝(福音の時)交わり、静聴、祈りの細胞、充満の時まで、海老沢師の助言によって終始一貫して進められた。礼拝は献堂十四年を記念して守られ、出席六〇名。午後には半数が参加。教会の霊的革新の祈りが盛り上り、最後に一同の祈りが続いた。山根師、島津伝道師の奉仕が実を結びつゝあるのを見る。

▼石神井アシュラム黙想会

第二回を去る十一月二三日(金)朝十時から四時まで石神井バプテスト(米田勇師)を会場に、海老沢、渕江両師が助言者として、開心(黙想)静聴(テキスト創世記十二章から二三章)祈りの助合い。充満の時を以て恵みのうちに終了。参加者は前回より少し多い十六名。

ジム・マシューズ博士

札幌と東北を応援

スタンレーの後継者、国際アシュラム理事長ジム・マシューズ博士が、八二年に来日、関東、関西、九州、四国のアシュラムを指導され大いに恵まれたことは記憶に新しいが、今年十月に中国、韓国の帰途、再び来日されたのを機会に札幌と東北を訪問応援して頂いた。

札幌へは十七日渕江夫人に同行を願い、中央教会と新生教会の婦人会を初め、藤野福音教会祈禱会、愛隣チャペルでお話を伺い、札幌アシュラム委員会でも奨励を頂いた。

二一日(日)には東北アシュラムを郡山教会で開き、宮崎彰教授の通訳により、礼拝から午後にかけて同博士の指導を受け、一同大いに恵まれた。出席約四十名で、各自真剣なニードを告白し、満されて感謝。

東京では二三日(火)午後、国際文化会館で、海老沢、大石、渕江その他有志十数名が参集、博士夫妻を囲んで内外情勢を語り合い、共に祈りの時を持つことができ感謝した。

○予告の部

▲東京城北アシュラム(第十六回)

明年二月十一日(月)午前九時半より、新宿区下落合四―一三、池上ホーリネス(山根、島津両師)で、主題「聖霊によって歩け」(ガラテヤ五章一六)を中心に守る。参加費千円、申込は右教会島津吉成あて。

▲東京城西アシュラム(第九回)

四月二九日(月)朝から高円寺教会(草村美牧師)にて開く予定。

▲石神井アシュラム黙想会(三回)

五月六日(月)代休日に石神井バプテスト教会にて守る予定。

○会友消息

村上　東師　更に快方に向われ、月一回は講壇に立たれている感謝。

山本繁夫師(九州)二年前に門司大里教会を引退されたが、昨秋キリスト新聞社から説教集「ここに愛がある」を出版された。

浜田竜雄師(小倉)八二年受難日に急逝されたが、日明教会員はテープから文を綴って立派な遺稿説教集を編み、今春ヨルダン社から出版された。

◇総務局より

前号以降に連盟活動のために尊い賛助を贈られたことを感謝します。

関西アシュラム　五万円
九州アシュラム　二万円
練馬アシュラム　一万円
松原向、平方美代子、有馬歳弘
(以上各一万円)
渕江千代子　三万円
高橋トキ、中山直良、飯島延浩
大石啓三、(以上各五千円)
大柴俊和、菅原繁昭(各二千円)
小計(十三口)一六六、〇〇〇円
累計(84年度)三九六、〇〇〇円

○書籍売上金(八四年四月以降)

神の然り(ジョンズ)　二九、〇〇〇円
神の国(タイタス)　一六、〇〇〇円
原則と実際　二八、〇二〇円
合計　七三、〇二〇円

＝最新刊・好評＝
海老沢宣道著　B6判 204頁 価1000円 〒200円
主イエスに就ての黙想
著者が五十余年の伝道生活中、主イエスから頂いた恵みを、静聴により証ししている。
読者は必ずや主のみもとに近づくことができるであろう。
発行所・白夢荘　東京都練馬区三原台1―18
振替・東京4―133392

▼アシュラムとは故スタンレー・ジョーンズ博士がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱生活運動である。

東京都目黒区中央町1-21-10
碑文谷教会気付
日本クリスチャン・アシュラム連盟